

Project Zero: 知識の壁を打ち破る

ペーパーレス化を加速する、知識活用AI「NotebookLM」

2026年、私たちは過去の制約から
制約から解放され、
未来の働き方へ移行します。

Noto Sans JP, Regular

- 我々の目標: 2026年3月末までの「原則ペーパーレス化」実現
- 変革の核: 業務プロセスを革新し、コストと「探す時間」をゼロにする
- 成功の鍵: その実現を加速させる「知識の加速装置」の導入



隠れたコスト：失われた「月間330時間」

私たちは、価値を生まない「探す」という行為に、膨大な時間を奪われています。



衝撃の事実: 従業員1人あたり、過去書類の検索・閲覧に
1日平均20分を浪費（社内アンケートより）



会社全体の損失: 全社員(100名換算)で
月間約330時間、年間にして約4,000時間
の工数損失に相当



目指す姿: この非生産的な時間をゼロにし、
本来の付加価値業務に集中できる環境を確立する

月間330時間



AIがナビゲートする、 次世代のナレッジワーク

過去の膨大な情報資産が、
社員一人ひとりの“思考を助ける”
AIアシスタントに変わります。

- ① 検索時間はゼロへ: 必要な知識は、
AIとの対話で瞬時に引き出す
- ② 100%の信頼性: 回答には必ず正確な
根拠（出典リンク）が伴う
- ③ 全社員がリサーチャーに: 誰もがデータ
に基づき、迅速かつ的確な意思決定を
行える未来へ



コスト構造の破壊：年間600万円の「紙の重み」

紙文化は、私たちの企業体力を静かに、しかし確実に蝕んでいます。

直接コストの内訳 (昨年度実績):

- 複合機リース・カウンター料金、用紙代: 年間480万円
- 外部倉庫の書類保管料: 年間120万円

承認プロセスの遅延:

- 「紙」の稟議書は、承認完了まで平均 4.5営業日 を要する
- 承認者の出社待ちが最大のボトルネックとなっている

DXを妨げる「情報の壁」と「リテラシーの壁」

メインメッセージ: コスト以上に深刻なのは、事業継続を脅かすリスクと、変革を阻む組織の壁です。

ボディ:

- セキュリティリスク:
 - 重要契約書の原本紛失リスク（過去3年で紛失未送2件）
 - 機密書類の置き忘れによる情報漏洩の脅威
- DX推進のリスク:
 - ITリテラシーへの不安から来る、新システムへの反発・操作ミス
 - 知識の属人化：「あの人でなければ分からない」状態の蔓延





NotebookLM：リサーチ特化の“閉じた”ブレイン

NotebookLMは、インターネットではなく、**私たちの情報だけを**学び、思考を助けるAIパートナーです。

- **定義**：ゼロから何かを創るAIではなく、既存の情報を深く理解し、分析・要約する**リサーチ特化AI**
- **情報源（ソース）**：アップロードされたPDF、ドキュメント、Webサイト、動画のみ。インターネットの情報は参照しない
- **絶対的な信頼性**：全ての回答に、必ず**出典（引用元）**を明示。AIの「嘘」（ハルシネーション）を構造的に防止

「知識の加速装置」としての 3つの戦略軸

NotebookLMの導入は、私たちの「Project Zero」を強力に下支えし、成功へと導きます。

軸1：ナレッジ活用基盤

過去の知見を瞬時に引き出し、検索工数をゼロにする。

軸2：DX教育支援ツール

AIが教育コンテンツを自動生成し、社員のリテラシー向上をサポートする。

軸3：プロジェクト管理補助

データに基づき進捗とROIを分析し、迅速な意思決定を支援する。



Flow 1：社内FAQをAIチャットボット化

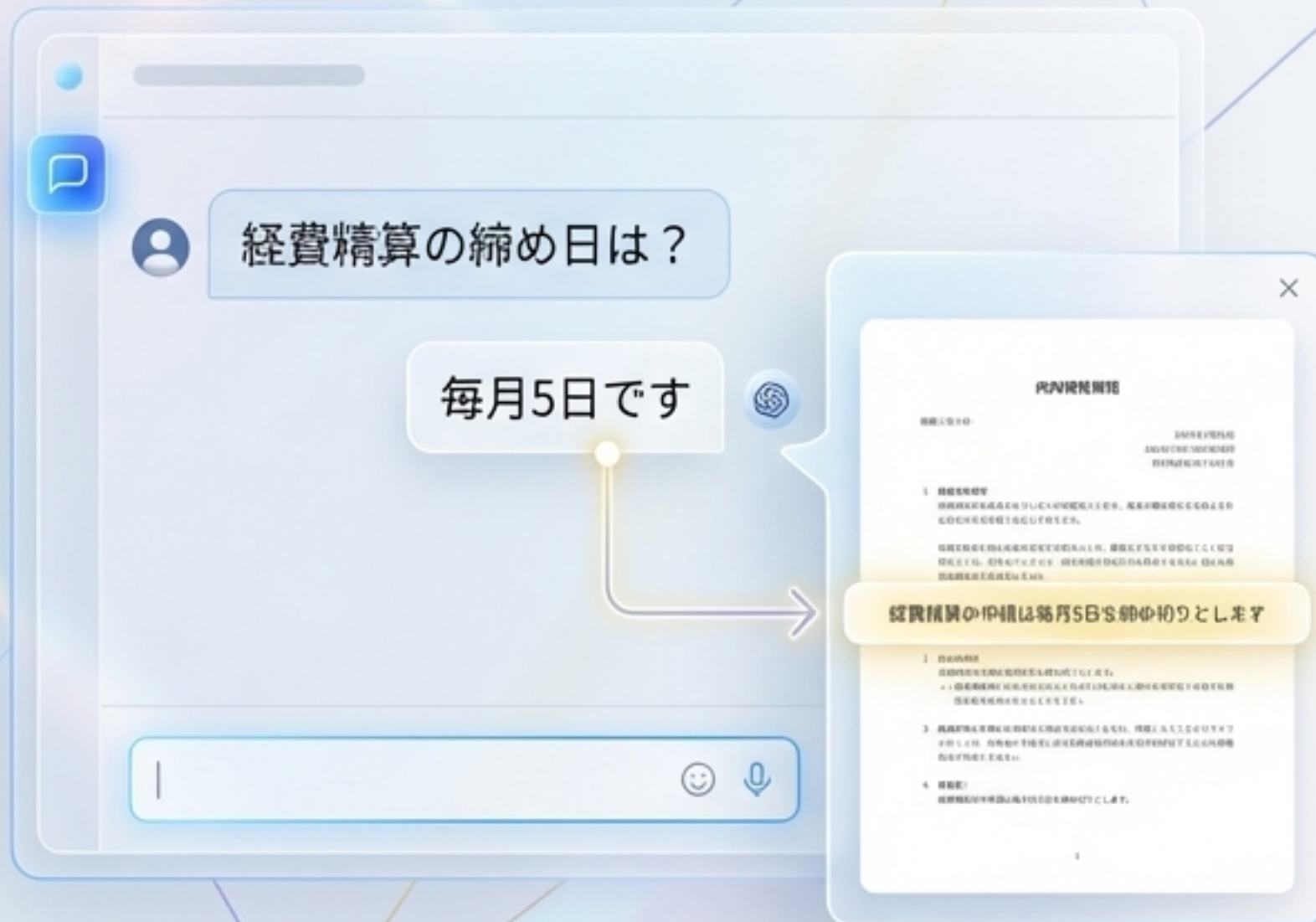
問い合わせ対応の属人化と月数百時間の工数を、根拠付きの即時回答で解決します。

How-To: 社内規程、システムのマニュアル、過去の稟議書などをNotebookLMにアップロードするだけ。

効果: 質問に**出典リンク付き**でAIが即座に回答。
社員の自己解決率が劇的に向上。

驚きの実績（SHIFT AI社事例）：

- ・ **非エンジニア**がわずか**10日間**で仕組みを構築
- ・ 問い合わせ対応工数を**月195時間削減**





Flow 2：リスクを抑えた機密情報管理

紛失リスクのあった重要契約書も、安全な環境で、必要な情報だけを瞬時に抽出できます。

-  絶対的なデータ保護: アップロードされた個人データや機密情報は、AIの学習には一切利用されない設計
-  ピンポイント情報抽出: 契約書の束から「A社との取引における解除条件は？」といった質問で、該当条項を瞬時に正確に抽出
-  高度なセキュリティ: Enterprise版なら、アクセス制御やデータを自社のクラウド環境に限定することも可能

ITリテラシーへの懸念を、 革新的な「耳で学ぶ」「動画で学ぶ」学習支援で解消します。

耳から学ぶ



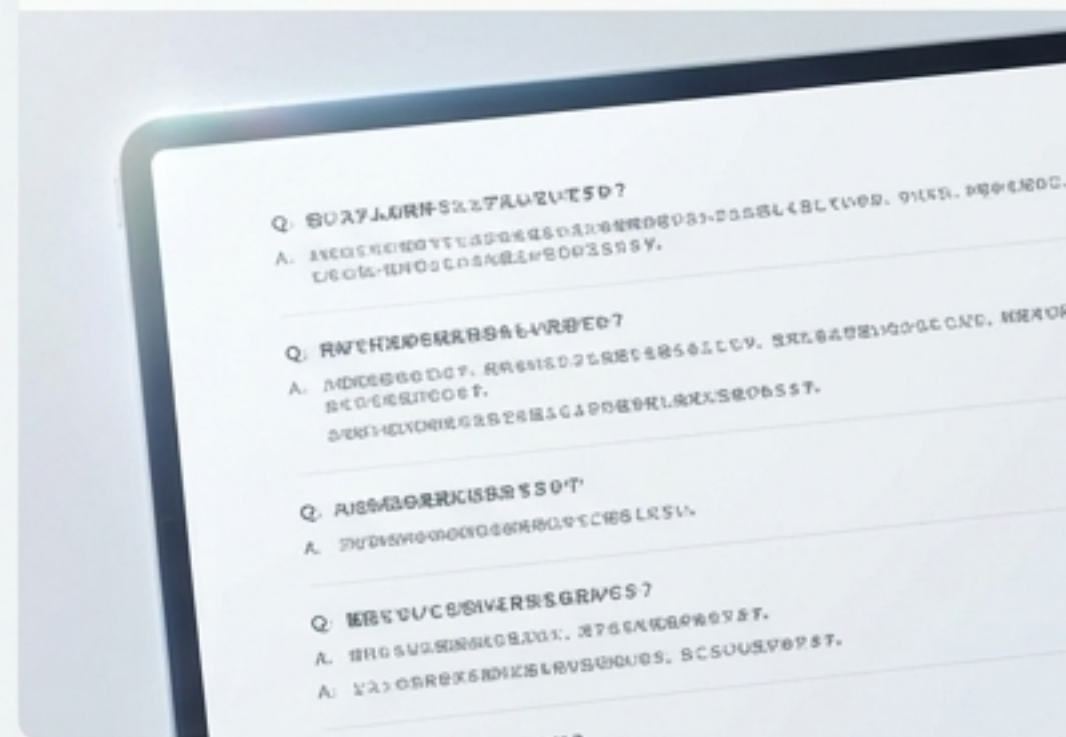
耳から学ぶ（Audio Overview）：
新システムの操作マニュアルを、AIが
ポッドキャスト風の音声解説に自動変換。
通勤中や作業中に学習可能。

動画で学ぶ



動画で学ぶ（Video Overview）：
全社説明会の資料から、ナレーション付
きの簡易スライド動画を自動作成。欠席
者フォローや復習に活用。

理解を深める



理解を深める（Studio機能）：
資料から「学習ガイド」や「FAQ」を自動
生成し、知識の定着を促進。

Flow 4：専門家AIによる意思決定支援

AIに「役割」を与え、経営やDX推進における意思決定の質とスピードを向上させます。

- **カスタム指示機能:** ノートブックごとにAIの「役割」「口調」「目的」を設定し、専門的な回答を生成させる
 - 例：DX推進リーダー向けにAIの役割を「クラウド導入専門家」に設定し、高度なリサーチを支援
- **ROIのリアルタイム検証：**
 - 削減目標と実績データをAIに分析させ、「計画書記載のROI試算通りに進んでいるか？」を常に検証
 - データに基づき、改善のボトルネックを特定



投資効果：7ヶ月で回収し、未来への投資へ

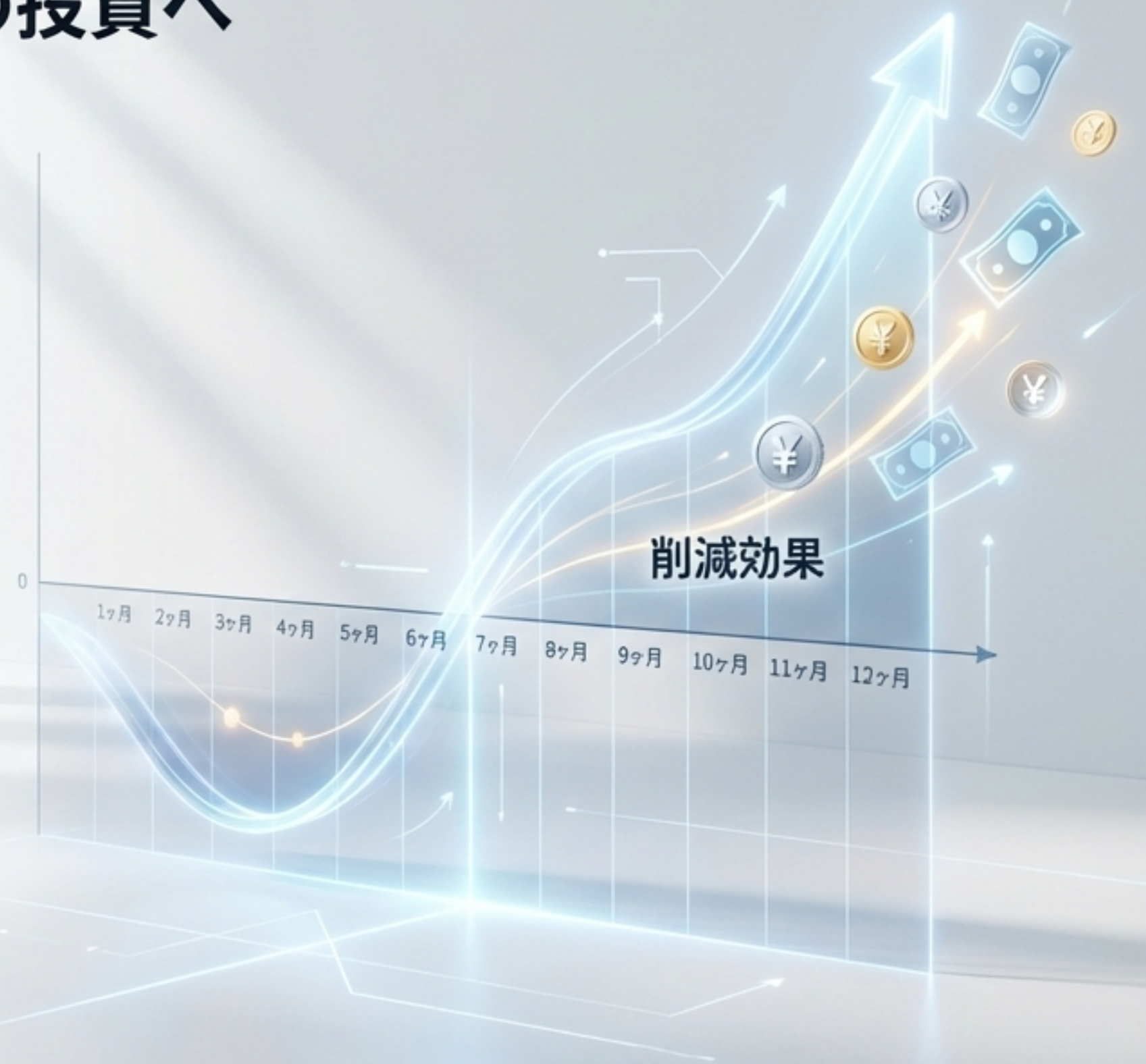
この変革は、年間**1,000万円**以上の財務インパクトを生み出す、**短期回収可能な戦略投資**です。

削減効果（月額）：合計 110万円/月

- 印刷・保管コスト削減: ▲30万円/月
- 業務工数削減効果: 検索・移動時間の短縮を人件費換算（▲80万円）

投資回収期間:

- 初期投資200万円は、計画書の見込み通り、7ヶ月での投資回収を目標とする





知識が「探すもの」から「使える資産」へ
社員は探し物のストレスから解放され、
より創造的で付加価値の高い業務に集中できます。

- ・ 稟議・承認の高速化： 承認者が過去の判断基準を瞬時に確認でき、平均4.5営業日の遅延を解消へ
- ・ 根拠に基づく意思決定： 全ての回答に**出典**が付くため、自信を持ってスピーディに行動できる
- ・ 継続的な業務改善（カイゼン）： ヘルプデスクのログをAIで分析。「利用者がつまづきやすい点TOP5」を抽出し、マニュアルを即時改訂するサイクルを確立

知性を育てる：AI活用文化の定着

NotebookLMは「導入して終わり」ではありません。
使うほど賢くなるAIを、現場が自ら育てていく文化を醸成します。

- ・ **現場完結の改善サイクル:**
非エンジニアでも構築・改善が可能。
「現場でできる範囲で効率化する」文化が根付く
- ・ **思考力の向上:**
AIからの的確な答えを引き出す「質問力」が自然と鍛えられ、問題解決能力そのものが向上する
- ・ **AIとの自然な協働:**
AIを特別なツールではなく、業務の延長線上にある
当り前の仕組みとして定着させる



NEXT STEP：変革の主役は、あなたです

今すぐ行動を開始し、全員で「Project Zero」を成功に導きましょう。

フェーズ1：初期検証 (本日～2026年1月)



総務部・経営企画部にて、まずは無償版を用いたパイロット運用を開始

対象：既存の社内マニュアル、過去の議事録など

フェーズ2：リーダーによる展開 (2026年2月～)

各部より選出されたDX推進リーダーが中心となり、自部署での活用法を検証・展開

フェーズ3：全社導入へ (2026年3月～)



全社導入開始に向け、あなたの積極的な参加を期待します！

